

北条早雲 (1432~1519)

北条早雲は、戦国武將の先駆けであり、その類いまれな才覚により後北条五代の礎を築きました。

生まれははつきりしていませんが、室町幕府配下の伊勢氏の出身と考えられています。当初、室町幕府のために働いていたようですが、やがて妹が嫁いでいた今川氏に入り、その嫡子となった甥の氏親を補佐する形で、今川氏の重臣となります。

さらに伊豆を支配していた堀越公

方の内紛に乗じて攻め入り、伊豆を奪い取ると、半独立しました。これが下剋上の始まりといわれます。その後は、相模へ進出し、三浦半島を含めた相模全域の支配を確立。『早雲寺殿廿一箇条』という家法を定め、これが分国法のお手本になったことでも知られています。



武田信玄 (1521~1573)

戦闘に滅法強く、謀略に長け、領土欲も旺盛。その一方で内政の充実も怠らない。信玄は、戦国大名の鑑ともいえる存在です。

甲斐の守護大名・武田氏の長男として生まれた信玄ですが、父の信虎が次男の信繁に家督を譲ろうとしたため、信玄は家臣団と結託して父を追放し、家督を継ぎました。

その後は、信濃に進出して、これをほぼ平定します。この時から信濃

の大名より救援依頼を受けた上杉謙信と敵対し、五度、川中島で決戦します。謙信とははつきりした決着はつきませんでした。そのほかにも戦闘や同盟、謀略を駆使し、駿河を攻略。さらに三河に進出し、徳川を破ったところで惜しくも病死しました。

